

中央大学国際経営学部 見学調査報告書

調査テーマ	JICA 職員の経験談から考えよう
調査日	2019年12月11日(水)15:00~16:40
調査先	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 本部
担当教員身分・氏名	教授 山田恭稔
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生 15名
調査趣旨・目的	国際協力という仕事に関して知り、JICA 職員の経験談を聞くことなどを通し理解を深め、そのキャリア・パスに対する意識や可能性を考える。
調査結果	<p>二回に及んだ事前勉強会において、国際協力ならびに JICA の概要の把握、さらに自らの関心事の明確化を経た上で、学生 15 名と小職からなる一行は 12 月 11 日に JICA 本部を訪問し、JICA 社会基盤・平和構築部 ジェンダー平等・貧困推進室の横田千映子課長代理の講演をうかがった。</p> <p>横田課長代理の講演では、前半に JICA の取り組みについての説明を受け、とりわけ、現在担当されている業務と関係が深いジェンダーの視点に基づいた途上国の様々な事例が紹介された。それらの中には、女性のエンパワーメントや地位向上を目標に据えつつ、ジェンダーに特化した活動内容(小規模起業支援、人身取引被害者支援など)で、男性をも含んだ社会の関係性の変化を促すプロジェクトもあった。その一方で、活動内容(高速輸送システムなど)はジェンダーに特化していなくても、ジェンダーの視点を併せ持つて受益者を特定することで、男女の社会関係に変化をもたらし得るプロジェクトもあった。</p> <p>また、講演の後半では、横田課長代理のプライベートな面にも触れながら、JICA でのキャリア形成、ならびに仕事と家庭の両立についてお話しいただいた。大学生時代については、国際協力や JICA に関心を持ったきっかけ、その上で、自ら積極的に機会を求め、途上国でのボランティア活動への参加経験を通して、貧困や難民などの国際的な問題に理解を深めたことが語られた。JICA 就職後については、二度の海外事務所(パキスタン、フィリピン)勤務や英国大学院への留学を経ながら、本部の様々な部署で事業に携わった経験が語られた。そして、二児の母として日々の生活時間の多くを育児に割かれながら、かつ、国外出張時には義父母の応援も含む家族の協力で支えられながら、横田課長代理がやりがいを感じられている仕事と生活は両立され、上述した業務経験やキャリアが積み重ねられていることがわかった。</p> <p>さらに、国際協力の分野では謳われて久しいジェンダー主流化の考え方は、それぞれのプロジェクトという現場だけではなく、JICA という職場の中でも浸透さ</p>

れ、職員の生活面にも反映されていることもわかった。

就職を考える際に、仕事の内容やそのやりがいについて考えることは当然であろう。しかし、より広く長期的な視野に立てば、そのことのみではなく、仕事を続けていくこと、仕事を通し様々な経験を積むこと、自らのキャリアを発展させていくことも、自らの将来や人生を設計する上で大切であり、それらを可能とする環境にも関心を払うべきだとわかった。



JICA の取り組みに関する横田課長代理の説明を熱心に聞く学生たち



学生たち一行と横田課長代理(中央)